

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0493500029		
法人名	社会福祉法人 永楽会		
事業所名	グループホーム のどか		
所在地	宮城県女川町浦宿浜字浦宿81-4		
自己評価作成日	平成 28年 2月 1日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成28年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活を、「その人らしく」健康で、楽しく、穏やかに過ごしていただけるようお手伝いさせていただいています。「地域交流」新しく変わっていく女川町の移り変わりを、入居者様に感じていただきたくいつも話題提供し、出向く機会(見学や買い物等)を設けている。また、地域行事への積極的な参加を心掛け、地域住民の方々と交流を深めています。  
「家族様との繋がり」職員と入居者様の信頼関係はもちろんのこと、ご家族の皆様と関わり、信頼関係を築く事で入居者様・ご家族様にも安心したサービスを提供できると考え、努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

女川町の唯一のグループホームであり、認知症の方が安心して暮らせる町づくりの地域拠点として、町や地域の期待は大きい。慢性的な介護職員不足に加え、震災後の町の人材流出が続いている。町や地域住民、家族の協力を得ながら、今までの暮らしを大切に「あなたらしさ」を持ち続けられるよう、家庭的雰囲気作りをしている。写真を見せて「これは昔乗っていた船だよ」と昔の思い出を楽しそうに話してくれた。入居者の表情から、入居者一人ひとりの思いや意向に沿ったケアに努めていることが伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム のどか )「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で話題に出るが、開所当時のままの理念である。事務室・台所に掲げ、いつも目にし実践できるようにしている。	「これまでの暮らしを大切に」「安らげる家、笑いあえる暮らし」が理念である。理念について、分かり易さなど見直す会議を開いた。入居者本位のケアなど、職員から多くの意見が出され、次年度への宿題となった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の回覧板で、ご近所付き合いも増え、行事などにも参加している。また、変わってゆく女川町の様子を見ていただけるよう積極的に外出の機会を設けている。	入居者と職員が女川町クリーン作戦に参加する等、地域活動に積極的である。近所付き合いも深まり、顔の見える関係ができた。伝統芸能「獅子振り」等の来訪や職場体験中学生との交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	女川町の中学生の職場体験の受け入れを行ない、グループホームの役割や認知症について、理解を深める事が出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動の報告を行なった後、意見交換会を行ない、情報を得ている。	2ヵ月毎に町職員、行政区長、家族代表等の出席で、ホームの取り組みや改善課題等を話し合っている。行事開催時の料理作り手伝いや入居者見守りの提案があり、昨年家族の協力を得て実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	内部の行事にご案内したり、必要時は連絡・相談をし、現状を見ていただきながら地域の中での協力体制を作っている。	女川町で唯一のグループホームである。認知症の方が安心して暮らせる町づくりの地域拠点として、期待は大きい。ホームの実情や地域の課題等を共有している。町の徘徊SOSネットワーク活用等の助言があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には、来客を知らせるセンサーを設置しているが、施錠は安全面を考え夜間のみ行なっている。行政区長さんや近所の方にもグループホームの理解を求めている。中庭を自由に散策してもらったり、外出の要望にも可能な限り対応している。	表通りの理髪店や近隣住民の見守り協力があり、散歩や中庭散策は自由で、本人の意思を尊重し制限はしていない。急に「家に帰る」と言われた時であっても、職員間で業務調整して、一緒に出るなど支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	対応について、職員間でフォローし合い、助け合う事で、個々がストレスを持たないように努めている。法人内の研修で「虐待の防止」について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での研修はあるが、職員一人一人の理解度はまだまだ低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	折に触れ、不安や疑問点が解決できるようお声掛けしている。理解・納得ができるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へ送る手紙や面会時などに、ご意見や要望を聞く機会を設けてはいる。多くはないが、その都度職員と情報を共有している。	信頼関係を構築し、話しやすい雰囲気を作るように心掛けている。本人や家族からは、日常生活に関する要望がある。入浴時の同性介助や身だしなみ等、その都度職員と話し合い対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には施設長も出席している。また、平日の朝には顔出しをしてくださっている。	管理者は、職員の意見を活かしていくことを心掛けている。職員意見で今日の出来事やエピソードを家族への手紙に追加した。家族から、生活の様子がよく分かると感謝された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「人事考課」制度により把握を行なっているが、給料の水準は学歴・過去の実務経験がベースになり、勤務年数により昇給をしている。職員は、労働条件が変わることを望んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や外部の研修はあるが、人員配置の問題もあり、職員一人一人に合った研修は行われていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	されていない。管理者・職員とも、独自の交流関係でサービスの質の向上に取り組む努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の段階で不安や心配事、意向などを聞いている。また、入居後知り得た情報は、職員間で共有し、安心できる環境を提供するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	なぜ入居を希望するのか、何を困っているのかを聞き、介護従事者としてアドバイスをしないながら安心感を持っていただけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族が必要としている支援を理解するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・食器洗い・洗濯・掃除など、「出来る事」を日頃の役割として職員と共に、一緒に生活する者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個々により若干差はあるが、通院や行事の準備等にも関わってくださったり、面会時や職員からの連絡・お手紙で日頃から情報提供する事で、家族間の絆は大切に保たれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	震災後の町の様子にピンと来ない方が多いが、仮設商店街や新店舗などに出向き、馴染みの人との関係を保っている。通院時に知り合いと会う事も多く、交流を維持している。	生まれ育った家や馴染みにしていた商店の周辺は、震災の影響で大きく様変わりした。店の移転先の情報を得て、買い物に出掛ける等、少なくなった馴染みの場、人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の生活暦や性格を考慮した上で、トラブルに発展しないように配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接する法人内の特養に移動された方と、行き来する機会を設けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分で伝える事が出来る方の意向は、その場その場で解決できるよう努めている。思いを口にできないような場合は、表情や様子から訴えをキャッチできるよう、職員同士が情報を共有している。	本人の思いや希望を伝えられる入居者が多く、散歩や買い物等の希望にできる限り対応している。他の入居者と馴染めないときは、職員と一緒に居室でテレビを見たり、話をしながら思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話の中から知り得たり、ご家族の面会時などに伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が知り得た情報は、生活記録表に記入するだけではなく、申し送りノートや口頭で職員同士把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方など、職員会議や申し送りで話し合っているが、「その都度」の現状に合った計画書は作成するのが難しいのが実情である。	3カ月毎にモニタリングを行い、計画書を見直している。使ったタオルは自分で絞ることを目標に掲げるなど、今できることが維持できるように、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化などを生活記録表に記載し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員一人一人が、その時のニーズを捉え、情報の共有をする事で、より適切な支援ができるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議での情報や地域の回覧板・外出などの機会から得る地域資源を活かしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が町内の病院にあり、ほとんどの方が入居前からかかりつけ医であるため、緊急時や必要時の受診などで適切な医療を受けている。総合病院である為、職員も安心して相談を行なっている。	協力医の総合病院には、緊急時の医療体制がある。家族が受診支援を行うときは、ホームでの生活状況やバイタル等の情報を提供する。受診結果や医師の助言内容等は、記録し、共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	不安な事や心配な事は協力医療機関に連絡し、助言を得ている。また、隣接する法人の特養看護師に相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	町内の総合病院が協力医であるため、受診時に限らず、相談や情報交換ができるよう関係作りを行なっている。入退院時も直接連絡を取り合った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族にグループホームで出来る事・出来ない事を明確に説明し、同意書を交わしている。今後も状態の変化や加齢に伴い、常に情報交換しながら不安なく終末期を迎えられるよう話し合っていきたい。	昨年、「終末期の看取り等事前確認書」を作成し、ホームが対応できるケアの説明と家族意向を確認した。前回計画した「意向調査」を実施した。医療機関との協力体制構築が課題であり、今後の取り組みを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の簡潔なマニュアルを目につく所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際に何度も警報・注意報が発令になっており、その都度避難方法を実践・見直しをしている。公用車を避難用にすする為、玄関脇に駐車している。隣接する法人の特養に応援を要請する。	避難訓練は、日中想定で実施し、避難ルートや火災通報装置の使用方法を確認している。実施内容は、推進会議で報告され、地域住民参加のないことや訓練回数を増やすことについて、話し合われている。	次回以降の訓練を更に充実させるために、地域住民の協力を得ていただきたい。夜勤者一人に対応できるように、夜間想定での避難訓練を実施していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語と馴染みの方言での言葉掛けで信頼関係を築くよう努めている。居室で職員とゆっくりと過ごす時間も設け、対応している。	人生の先輩であることを忘れずに、本人に合った言葉かけをするように努めている。特に、トイレ誘導の際は、「私が行きたいから付いてきて」等と誇りやプライバシーを損ねないように配慮して声掛けしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で選択し決定できるような言葉掛けに努め、自由な環境で生活していただけるよう支援している。ご自分で思いを表現できない方には提案できるような言葉掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が提供する時間と、ご本人のペースに合った時間のメリハリを作り、一日を過ごしていただいている。無理強いせず生活していただけるよう支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院に行く頻度は、ご本人からの訴えであったり、こちらからお誘いをしている。ご自分の好きな髪形にしている。ご自分で整容できない方には、声掛けや支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳など、出来る方出来る事をしていただいている。職員手作りの、個々の好みのランチョンマットを使っていただき食事を楽しんでいただいたり、定期通院時、職員と外食したり、地元の八百屋と一緒に買い物に出掛けたりしている。	行商経験のある入居者によって捌かれた新鮮な刺身が人気で、週1回食卓にのる。昼食時、ランチョンマットに描かれた写真を見せて「これは昔乗っていた船だよ」と昔の思い出を楽しそうに話してくれる入居者がいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が精神状態に影響する事を考慮し、定時以外にも提供している。職員はお一人お一人の好みを把握し、量や盛り付けなどを工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来ない方には、職員が見守りや声掛け、一緒に行なうなど支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録表への記入や申し送りで個々の排泄パターン・リズムを把握し、個別に声掛けや案内を工夫している。その人に合ったバットを使用し清潔保持に努めながらトイレでの排泄支援を行なっている。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導する。自立している方が多く、夜間は睡眠優先で無理に起こさない。夜間は、パッドの使用や呼び出しがあった時に対応する等、個々の状況に応じて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各居室にトイレがあるため、排便の確認が出来ない事もあり、職員が朝夕各トイレをチェックしている。主治医に相談したり、職員が食物繊維の多いおやつを作るなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	要望がなく、職員から声掛けし入浴を行なっている。入浴のタイミング、時間帯は聞き、ご自分で準備できるよう支援している。	同性介助等の要望や一人ひとりのタイミングに合わせて、できる限り支援している。入浴を無理強いせずに「幸せいっぱいのお風呂の時間ですよ」と声掛けを工夫し、本人が気持ちよく入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、休息する事が困難な方には、職員と一緒にテレビを観たりベッドに横になる時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解できていない。担当職員が受診できるようシフトを調整し、主治医に相談できる環境に努めているが、まだ努力は必要である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の「出来る事」を見極め、「役割」を持ち「頼りにされている」事で張り合いや楽しみを感じていただけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に中庭を散策したり、天気の良い日は周辺を散歩している。希望に添ったり、職員の買い物に付き添っていただき、気分転換を図っている。誕生日には、ご家族と外食する機会を作っている。	散歩や馴染みの駅前商店街等へ出掛ける機会が多い。「大きな船を見たい」等の一人ひとりの希望にそった外出支援を行っている。昨年、墓参りに行きたいという希望が多かったことから、家族の協力を得る等して入居者の墓参りを実現した。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所金庫にお預かりしている。お金を持っていない事で不安の声が聞かれるが、その都度「お預かりしています」と声掛けし、安心していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が仲介し、電話で話す機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には、日々の生活の様子を写した写真を飾り、立ち止まって話ができるようにしている。廊下・浴室にもエアコンが設置しており、温度差をなくしている。	玄関を入ると入居者の名前が書かれた絵手紙風の9枚の色紙が目につく。色紙には、暮らしの様子や感謝が綴られていた。加湿器とエアコンで室温管理がなされ、臭気や空気の澁みがなく快適である。居間に飾られた内裏雜が季節を感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、テーブル、椅子がありテレビが2台設置してある。置き場所を工夫し、思い思いに過ごせるよう工夫している。廊下の突き当たりに椅子を置き、日向ぼっこができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	震災で、使い慣れた物を失った方が多く、好みの物や使い勝手が良いようにご本人、ご家族と相談し、居心地良く過ごせるよう工夫している。御位牌には毎朝お茶を供え、生花も欠かさないようにしている。	入口には、入居者の名前と飾りのついた表札が下げられ、工夫の跡がうかがえる。室内には、クローゼットや洗面化粧台、トイレが備え付けられている。趣味の写真や花などを飾り、その人らしい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、車椅子の方も一人で自由に居室から食堂まで移動できるようにになっている。プライバシーに配慮しながら、ドアの開放や夜間の照明に気を遣っている。		